

ソーラー電気三輪車 与路島へモデル導入

奄美の 瀧取締役が推進



地元の人に活用を

瀬戸内町でドローンの実証実験などを続けている(株)TARGET DX(本社・瀬戸内町・立石聡明代表取締役社長と全国で地域創生プロデュース企業を行う(株)TARGET(本社・同・Minto Brown代表取締役社長)と奄美での地域旅行アクティビティ開発事業を行う(株)NPRツーリズム奄美(本社・同、平田代表取締役社長)の3社は、アフターコロナを見据えての事業展開を視野に(株)TARGETを存続会社として合併し全国事業への展開を目指すことに加え、世界自然遺産登録を目前にした奄美での事業について新たに奄美戦略会社(株)TARGET amamiを準備、奄美事業を同社に集約。新たにエコで耐えるクリーンエネルギーの交通手段としてソーラー電気三輪車事業に参入、販売とレンタル事業を展開する。

電気三輪車事業については、奄美大島で47年の中古車販売、整備・修理等の実績を有する(有)奄美マイカーセンター(喜元健一郎代表)と連携、3人乗りの電気自動車として改造、与路島へ9・10月にはモデル導入を図る予定。同事業の推進を担うのは大島高校から九州大学へ進み、トヨタ自動車で車両性能の開発業務などを行ってきた改造前の電気三輪車を見守る喜元代表(右)と瀧さん(左)奄美マイカーセンターで

た30年のエンジニア経歴を持つ瀧真一郎取締役。今後、電気三輪車の屋根には、ソーラーパネルが張られ、充電で走行可能にするための

改造が順次進められるが、ベース車両より性能向上を目標としている。また、与路島にはソーラーパネル基地1カ所が設けられる予定。事業を進める瀧取締役

役は、地元の人に活用可能にと考えており、「全国展開スタート地点となる与路島へのモデル導入。自然と開発、文明と共存、島つちの懸け

橋になれるように取り組みたい」と意気込む。改造を待つ電気三輪車は、奄美マイカーセンターで7月中旬まで展示中。

韓国でイン ド型広まる 新型コロナウイルス

【ソウル】韓国政府は7日、6日の新型コロナウイルスの新規感

染者数が1212人と発表された。あたりの感染者数は昨年12月下旬までは過去2番目に多かったと発表された。感染力が強い「インド型」